

英語科学習指導案

日 時 令和4年5月27日（金）公開授業II
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 3年D組34名
 会 場 2C2D教室
 授業者 山蔭 理恵

1 単元名 Lesson 2 Languages in India (NEW CROWN English Series 3)

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は、授業内外で diversity (多様性) に触れている。単元前の調査では、8割以上が多様性という言葉で「(複数回) 聞いたことがある」と回答した。加えて、多様性について議論してみたい話題を尋ねたところ、「文化」、「人種」、「男女平等」など多岐に渡る話題(表1)が挙げられた。表層的な information (情報) で終結せず、自分事として心を尽くして考える matters (問題、事柄) へと思考の深まりを期待する。

これまでの授業では、ALTに加えて、その他の英語に堪能な人、タイの同年代の学生等と個別や少人数で会話を行う活動を行っている。生徒にとっては、クラスメイト以外の人と英語でやり取りすることを通して、改めて英語という言葉の多様性や国・地域による文化の多様性を実感する機会となった。

人によって、話す内容も話し方(表現方法)も多様であればこそ、それらを理解することは容易ではない。しかし、その理解できなさ(曖昧さ)に耐え、相手の発していることを何とか理解しようと傾聴や想像をし、自身の考えを深化・再構築させていくことに、外国語によるコミュニケーションの価値があると考えている。本単元では、これまでの学習を基盤とし、話す内容と表現方法の両側面から多様性に関わるやり取りの質的向上を図りたい。

表1 多様性について議論してみたい話題

話題(具体例)	回答数
文化(習慣, 礼儀, 価値観, 生活様式)	29
人種(黒人・白人差別, 共存)	21
男女平等(差別, ジェンダー, 混合名簿)	14
民族(順応, 多民族国家のあり方)	8
言語(統一, 少数言語の保護)	7
宗教(考え方の違い)	6
LGBTQ+(差別)	5
障がい(差別), 経済格差(富の分配, 平等)	各3
教育(質, 学校, 義務教育), 国際社会(コロナ対応, 世界情勢), 個性(統一, 排除), 働き方, SDGs	各2
生物多様性, 多様性の捉え方の変化, 未来の多様性	各1

(2) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(3) 話すこと[やり取り] ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする」を中心に、複数領域にまたがる統合的な言語活動を進めていくことができる単元である。教科書題材として、インドの多言語社会が取り上げられている。生徒にとっては、言語をはじめとする多様性に触れ、SDGsに関わるグローバルな視点を育むことのできる単元となる。多様性についてのやり取りを通して、自らの考えを深化・再構築することを繰り返し、自己及び社会の理想の在り方や、良きコミュニケーションの在り方について視野を広げて考えさせたい。言語材料としては受動態を含む文を学習するが、既習事項をスパイラルに活用する中で徐々に定着を図る。豊かな題材を通して「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を展開したい。

(3) 教科研究との関わり

本校英語科では、教科研究主題を「互いの多様性を認め合い、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力(表2)を以下の通り整理した。

表2 本校英語科で育成を目指す資質・能力

思考力等	コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、言葉の曖昧さに耐えながら、習得した知識・技能を活用して、外国語を用いて柔軟に自分の考えを伝え合う力。
協調性等	相手を尊重し、傾聴や考えの深化・再構築をしながら、外国語を用いて双方向のコミュニケーションを図ろうとする態度。
主体性等	多様な話題に好奇心・探究心をもち、自らの感性を磨きながら、外国語を用いて豊かにコミュニケーションを図ろうとする態度。

本単元のまとめの活動は「diversity (多様性) に関わるトピックについてペアで意見を述べ合う」ことであるため、本単元では特に、次の二つの手立てから資質・能力の育成を目指す。

手立て1 研究の視点（1）主体的・対話的で深い学び ー系統性をもたせたスピーキング指導

本校英語科における主体的・対話的で深い学びの一端として、単元の主たる言語活動である「話すこと [やり取り]」の話題（表3）の設定を生徒に委ねる。単元のゴールを生徒と事前に共有することで、生徒は学びたい内容を自ら考えるようになる。

表3 本単元におけるやり取りの話題

	話題例 [分類]	関連・備考
1	Should we keep all languages in India? [language]	教科書題材
2	Is it important to wear school uniforms? [gender]	生徒の関心のある話題 1
3	How would you enjoy a concert? [physical abilities]	生徒の関心のある話題 2
4	What is important when you communicate? [stereotypes]	生徒に無い視点の話題
5	(生徒がさらに深めたい話題を各自設定)	生徒の関心のある話題 3
6	What is your ideal image of diversity?	単元の問い (抽象的)
7	How can you encourage diversity in your class?	単元の問い (具現化)

①学びに対して好奇心や探究心をもちながら自己決定をし、解決すること（主体的な学び）、②他者とのやり取りを通して得た情報を比較、関連付けて自分なりに再構築すること（対話的な学び）に加え、③教師が生徒のやり取りの内容や様子を観察し、次時以降の話題の方向性や難易度について判断を加えながら、徐々に内容面と言語面の高度化、深化を図ること（深い学び）が、資質・能力を育成するものと考えられる。

手立て2 研究の視点（2）ICTの効果的な活用 ー学びの接続

本校英語科におけるICTの効果的な活用として、①**学びのモニタリング（過去と現在の学びの接続）**、②**協働的な学びの拡張（人と人、教室の内と外の学びの接続）**を行う。①については、学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」を用いることで、年度をまたいだ個別のパフォーマンスの比較を容易に行うことができる。単元の導入で、昨年度の「話すこと [やり取り]」の領域を扱った単元の映像や音声を振り返り、本単元における個人の目標決めの根拠とする。単元では、手立て1に挙げた毎回のやり取りを録音し蓄積する。生徒は録音した音声を後から聞き直すことで授業や単元の前後を比較し、変容や成長を実感できる。また、音声の文字起こしを行うことで、発話の癖やエラーについても可視化できる。

②については、教師もモニタリングとフィードバックを行いやすくなることから、手本となるモデルを共有し、生徒同士の学びを接続することができる。必要に応じて他学級のモデルを共有することもできることから、教室内外の学びの接続も可能である。また、学習支援アプリの提出箱に提出された資料を、生徒が常に閲覧自由な状態にしておくことで、各々の必要感に応じて適宜アクセスし、活用することができる。

3 単元計画

（1）単元の目標

友達の見解等を踏まえた自分の考えをまとめるために、社会的な話題（多様性）について、自分の考えとその理由を、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

（2）評価規準（「話すこと [やり取り]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 受動態を含む文の特徴や決まりを理解している。 [技能] 社会的な話題（多様性）について、自分の考えとその理由を伝え合う技能を身に付けている。	友達の見解等を踏まえた自分の考えをまとめるために、社会的な話題（多様性）について、自分の考えとその理由を、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	友達の見解等を踏まえた自分の考えをまとめるために、社会的な話題（多様性）について、自分の考えとその理由を、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

（3）指導の計画

時	学習課題（やり取りの話題） ■ねらい 主な言語活動等（丸数字） 関連領域：L 聞くこと R 読むこと S(U) 話すこと [やり取り] S(P) 話すこと [発表] W 書くこと	関連する評価の観点			備考
		知技	思判技	態度	
1	Lesson Q: What is your ideal image of diversity? ■単元計画を知り、学びの見通しをもったり学習計画を立てたりする。 ①自己のパフォーマンスを分析する。 ・昨年度の同一領域のパフォーマンス動画を視聴する。 ・既にできること、本単元で新たに獲得したいこと等を言語化する。 ②個人目標を設定する。				手立て2 ICTの効果的な活用 言葉だけでなく、実際のパフォーマンスの姿から目指す姿を具体的に想起する。

	<p>③単元のパフォーマンス課題に対するルーブリックを作成する。 <ルーブリック作成の手順> i) 「良いパフォーマンス」の要素（言語面，内容面）を挙げる。 ii) B評価（全員が到達したい基準），A評価の記述語を考える。 iii) S評価の記述語，A・B評価に各生徒が追記する。（個人目標） ※過去のルーブリックと比較し，パフォーマンスの高まりを促す。</p> <p>④単元目標達成のために，単元途中で到達したい姿を記述する。 ・内容のまとめり（教科書題材や言語活動の領域）ごとに言語化する。</p>	<p>手立て1 主体的・対話的で深い学び 生徒と教師がやり取りをしながらルーブリックを作成する。学習計画を公開することで，生徒も自らの学びをバックワード・デザイン（逆向き設計）で考える。</p>
2 3 4	<p>Should we keep all languages in India? L R S(I) ■問いをもちながら教科書題材に触れ，新出の言語材料等を理解する。</p> <p>①題材の場面・状況を把握する。 ②新出の言語材料（受動態）の形，意味，使い方を理解し慣れる。</p> <p>■問いをもちながら教科書題材を読み，やり取りに向けて情報を集める。</p> <p>①題材の概要を把握する。（パラグラフリーディング） ②調べたり教え合ったりして，必要な情報について理解を深める。</p> <p>■多様性について考えを広げたり深めたりする。※スパイラルな指導</p> <p>①問いに対して，ペアでやり取りを繰り返す。（最後は録音を行う。） ・全体で大まかな時間は設定するが，ペアごとに目標（やり取りを続ける時間や，ルーブリックの重点項目）を決めて時間を有意義に使う。</p> <p>②やり取りの合間にルーブリックを用いて相互評価を行い，必要感に沿った準備を行う。（情報の収集，考えの整理，表現の蓄積等）</p>	<p>手立て1 主体的・対話的で深い学び 各時間のやり取りの中で，適宜補助発問を行う。</p> <p>【発問例】 -If you decrease some languages, what will happen next? -Imagine that you can't use your language. What do you feel? -How do you encourage diversity in your daily life? -If you meet a non-Japanese person for the first time, what language will you use?</p>
5 6 7 本時	<p>Is it important to wear school uniforms? (第5時) L S(I) How can everyone enjoy each life? (第6時) L R S(I) What is important for good communication? (第7時) L R S(I)</p> <p>■多様性について考えを広げたり深めたりする。 ※スパイラルな指導①～②</p> <p>③単元前半を通して学んだこと（多様性，やり取りについて）や，単元後半の見通し，目標等の修正などを単元シートに記入する。（第7時） ④多様性についてさらに深めたい話題を考える。（第7時）</p>	<p>手立て2 ICTの効果的な活用 提出済の単元シートややり取りの音声，考えを整理したマップを適宜共有する。既習表現の活用（言語面）や視野の広がり（内容面）について考えを深める。生徒は個別の必要感に応じて学習支援アプリ上の「貯金箱」を適宜参照する。</p>
8 9	<p>What is your ideal image of diversity? L S(I) W ■多様性について考えを広げたり深めたりする。（各自の問い） ※スパイラルな指導①～②</p> <p>■多様性について現時点での考えをまとめる。</p> <p>①前時までの蓄積（単元シート，やり取りの録音，考えを書き出したマップ等）を振り返り，ポスターのコンセプトを考える。 ②簡単な英文，語句とイメージ画を組み合わせて，ポスターを作成する。</p>	<p>既習表現の活用（言語面）や視野の広がり（内容面）について考えを深める。生徒は個別の必要感に応じて学習支援アプリ上の「貯金箱」を適宜参照する。</p>
10 11	<p>What is your ideal image of diversity? L R S(I) How can you encourage diversity in your class?</p> <p>■多様性について考えを広げたり深めたりする。（ポスターを用いて） ※スパイラルな指導①～②</p> <p>③ポスターを見て（読んで），相互にコメントを送り合う。 ④単元後半を通して学んだこと（多様性，やり取りについて）や，パフォーマンステストへの意気込みなどを単元シートに記入する。（第11時）</p>	<p>※第1～11時は「記録に残す評価」は行わない。やり取り中の様子や提出された音声，単元シートに対して，全体及び個別にフィードバックすることで指導に生かす。</p>
後日	<p>①パフォーマンステスト：diversity（多様性）に関わるトピックについてペアで意見を述べ合う。（授業で扱った話題+α） L S(I)</p> <p>・多様性に関わる複数のトピックからその場でランダムに一つ選び，自分の考えとその理由をペアで3分程度述べ合う。その後，ペアを替え，同様のやり取りをさせる。 ・教師は単元の評価規準（「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」）に照らしてルーブリックを用いながら評価する。</p> <p>②パフォーマンステストの動画を視聴し，単元の学びを振り返る。 ・単元前後の変容や伸びを自ら自覚し，次の単元の学びに繋げる。</p>	<p>○ ○ ○</p>

